

令和7年度 門川町立五十鈴小学校 学校評価書(自己評価)

※ 自己評価は4段階評価とする。【A・・・よい B・・・概ねよい C・・・努力が必要 D・・・課題が多い】
 ※ 下記の割合で示す数値(%)は、肯定的回答(4 そう思う、3 だいたいそう思う)の合計を表している。

- ◎ 学校目標 『自ら考え・判断し、正しく実践する、人間性豊かで、たくましい五十鈴っ子の育成』
- ◇ めざす学校像：「夢や希望を育む元気な学校、静と動のある規律正しい学校、豊かな情操を育む整備された美しい学校」
- ◇ めざす児童像：「進んで学びよく考える子、進んで行動できるやさしい子、進んできたえるたくましい子」
- ◇ めざす教師像：「使命感を持ち続ける教職員・自らの言動を通して児童を導く教職員・組織の一員として共通実践・共通指導をする教職員」

評価項目	評価指標	評価結果 【肯定的回答の割合】 (4、3の割合の合計)	自己評価		考察・対策	学校関係者評価
			指標別	総合		評価結果
めざす学校像	1 五十鈴小学校は、児童の夢や希望を大切にしたい学校教育を行っていますか。	教職員：100% 保護者：88.7% 児童：91.7%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「夢や希望をどのように伝え、感じさせているか」について具体的な教育活動が見えにくいという声もある。キャリア教育等、様々な体験活動のもつ意義について積極的な情報発信に努めたい。また、来年度はキャリア教育の日を設け、保護者・地域向けにも講演会等の実施を試みたい。 ○ どの学年も、地域の関係機関やボランティアの方々に協力をいただき、体験的な活動の充実を図ることができた。 ○ 豊かな心の育成のため、今後も学校の中だけではなく、学校を取り巻く地域の方々とふれあいや、地域の自然や文化等を知る活動を通して、より一層推進できることを今後も積極的に発信するとともに、ふるさと学習につながる地域素材の開拓に引き続き努めていきたい。 ○ 校舎周りの整備に関しては、年3回の奉仕作業で保護者の協力により、美化作業ができた。また、環境教育推進校として、情報発信や活動を行ったことで職員や児童の意識も高まってきている。引き続き取組を工夫していきたい。 ○ 学校で起こる様々な問題に関して、意識を高くもち誠実に対応できるよう職員の意識を高めていきたい。 ○ 学校日より、学校ホームページ、学年・学級通信での情報発信を通して、教育活動の様子を多くの方々に知らせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員、保護者、児童共に評価は高めになっているが、個人的にもAの評価だと思う。 ○ 参観週間やオープンスクールに参加しましたが、全体的に明るく、落ち着いた学校と思います。 ○ 夢も職業ばかりではないと思うので、こんな家に住みたい、外国へ行きたいなど、自分の好きなものを自分で理解して「やってみたい」「行ってみたい」そのためには・・・と小さなことからOKだと思う。五十鈴の子は何かしら「好き」を持っていると思う。 ○ ふれ合い花壇が中山地区の方々と協力し合って整備され、とてもきれいにされている。花の苗も栽培されており、素晴らしい。 ○ 学校だよりを地域の班でも回覧することにより情報発信がよくできている。毎月配付していただき、学校行事もよく分かる。
	2 五十鈴小学校は、地域や各種団体等との連携を大切にしたい学校教育を実施していますか。	教職員：100% 保護者：93.8% 児童：94.2%	A			
	3 五十鈴小学校は、学校内外の環境をきれいに整えて学校教育を行っていますか。	教職員：83.3% 保護者：96.9% 児童：86.6%	B			
	4 五十鈴小学校は、来校者や電話への問い合わせや保護者、地域からの相談に誠実に対応していますか。	教職員：100% 保護者：91.7% 児童：82.7%	A			
	5 五十鈴小学校は、行事や児童の様子などの情報発信を積極的に行っていますか。	教職員：100% 保護者：85.5% 児童：90.4%	A			
めざす児童像	6 児童は、指示されてからでなく、自分で考えて学習や正しい行動ができていますか。	教職員：25.0% 保護者：74.2% 児童：89.1%	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ひなたの学び」を意識して、児童が進んで思考したくなる授業展開を工夫するとともに、協働的な学び合いの面白さを体験させるなど、思考力や判断力を高める授業研究に努めていく。 ○ 心のアンケートの確実な実施と教育相談を通して、いじめの兆候を見逃さない迅速な対応を心がけた。児童の人間関係の改善や、成長が著しい児童も多く見られるようになってきている。 ○ 友達や目上の人に対する言語環境を整え、思いやりのある接し方を学校生活全体で工夫していきたい。 ○ 児童のあいさつについては、個人差が大きく、全体的によくできるとは言いがたい。登下校中の停車してくれた車への会釈については、随分とよくなった。学校・家庭・地域において、児童主体のあいさつ励行の取組等、引き続き工夫が必要である。 ○ 集会で委員会からの啓発や集団行動の育成を図ったりすることで、規範意識の共有化を図ることができたが、教職員の評価は低かった。今後も継続して共通実践に努め、「めざす児童像」に近づけるよう、全職員で指導を行っていきたい。 ○ 学校の行事や定期的な「ほけんだより」の発行を通して、健康な体づくりに関する協力を各家庭にお願いしている。今後は、児童の徒歩通学の励行についても、各家庭との連携を図りながら進んで体をきたえる児童の育成に取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の評価と保護者・児童の評価に差があるのが、気になる。 ○ 先生方の評価が厳しい。先生方は、よくやってくれている。 ○ 大きな声であいさつができる児童が多い。あいさつ指導期間には、あいさつカードを地域でも朝渡すようにしたが、大変良かった。停車してくれた車への会釈は殆どの児童が実践している。 ○ 挨拶はきちんとできていると思う。個人差が大きいようには感じませんでした。 ○ 五十鈴小学校環境プロジェクト委員会の発表を聞いた。自分たちでできる地球を救う活動には感心した。先生たちの指導がすばらしく、児童の意欲をうまく引き出している。
	7 児童は、思いやりのある言動が育っていますか。	教職員：33.3% 保護者：86.6% 児童：92.9%	C			
	8 児童は、元気なあいさつや返事など基本的な生活習慣が身に付いていますか。	教職員：33.3% 保護者：86.6% 児童：89.7%	C			
	9 児童は、はじめやきまりを守って生活をしていますか。	教職員：33.3% 保護者：82.4% 児童：94.3%	C			
	10 児童は、地域行事に積極的に参加していますか。	教職員：66.7% 保護者：72.9% 児童：71.1%	B			
めざす教師像	11 先生方は、はじめをつけ、規律正しく授業を行い、学力向上に努めていますか。	教職員：100% 保護者：92.7% 児童：92.4%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のきまりを意識させ、職員の共通理解と児童保護者への周知を行った。学年・学級間に差が見られる事があり、規範意識の定着を図っていく。 ○ グッドウィル会議(いじめ・不登校対策会議)・校内就学委員会等を通して、全職員が児童理解に努め、一人一人の児童に適切に対応・支援ができるようにしてきた。 ○ 人権感覚を磨いて、職員の言動が、児童に与える影響について考え、児童の立場に立った言動ができるように努めている。 ○ 学年主任、研究主任を中心に、日々の授業づくりを話し合い、授業改善に努めることができた。校内主題研究では、教師の協働的な児童理解を通して授業研究を行うとともに学校支援訪問で学びを深めることができた。各種学力テスト分析により、児童の学力向上にも努めている。 ○ 「五十鈴小学校の職員」として、職員それぞれが「チーム五十鈴」の一員として、全体的に方向性を同じくして取り組んでいる。学校評価や学校運営協議会での反省を生かし、次年度に向けて教育課程を工夫したい。 ○ 夏季休業のコンプライアンス研修や、コンプライアンスに関するチェックシート実施、職員会での声かけを通して、職員のコンプライアンス遵守の啓発を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参観日等に参加して、教職員の熱意を感じた。子どもたちに伝わっていると思う。 ○ 児童の目線で、しかも、分かりやすい話し方で授業を行っている。理解させ、納得させよとする教育を感じた。 ○ びっしり詰まった年間行事を見ただけで、先生方の忙しさが想像できます。本当にお疲れ様です。 ○ 保護者にも先生方の頑張りは伝わっていて、評価は高いと思う。 ○ 先生方が地域行事に溶け込むのは難しい時代になったが、さみしい気持ちもある。
	12 先生方は、児童一人一人の理解に努め、個に応じたきめこまやかな対応に努めていますか。	教職員：100% 保護者：83.3% 児童：85.2%	B			
	13 先生方は、子どものために授業の準備や学級経営を頑張っていますか。	教職員：100% 保護者：94.8% 児童：89.8%	A			
	14 学校職員は、児童の手本となる言動を行いよい影響を与えていますか。	教職員：91.6% 保護者：92.8% 児童：87.9%	A			
	15 学校職員は、組織の一員として共通指導を行っていますか。	教職員：100% 保護者：88.6% 児童：72.6%	B			

知・徳・体 ◇ 確かな学力の定着（基礎・基本の定着、聞く力・伝える力の育成） ◇ 豊かな心の育成（優しい心・強い心・正しい心）

◇ たくましい体の育成（身体能力や健康の保持・増進）

徳・知・体・連携	16 学校は、児童の読書活動の充実に努めていますか。	教職員：100% 保護者：88.5% 児童：80.3%	B	B	<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全校一斉漢字テストを行い、児童や職員の日常を振り返り基礎学力の向上に努めた。 ○ 朝の時間の全校一斉読書の工夫を推進するとともに、読書の達成感を持たせる手立てを講じるなど、児童の活字離れの解決に向けた努力が必要である。家庭読書に日には、宿題を出さずに読書の時間が確保できるように行ってきたい。 ○ タブレットの効果的な活用については、保護者からなかなか見えにくいとの意見がある。参観授業での積極的な活用、懇談会や通信等での発信、家庭への持ち帰り学習の積極的な導入等を推進する必要がある。同時に、児童の健全な情報モラルの育成を行ってきたい。 ○ ICTの活用については、次年度児童のタブレットが新しく導入されるので、積極的に活用できるように、進んで研修等にも参加したい。また、教育委員会の協力を得ながら、環境整備にも努めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書感想文表彰式において、五十鈴小の児童が何人も表彰されて良かった。 ○ タブレットなしの授業は考えられない。自分たちの小学生時代の時から、ICT活用を受けていれば、苦勞しなくて済むと感じる。 ○ 授業では、タブレットを活用していると思うが、家庭の持ち帰り学習に至るのは大変だと思う。 ○ 防災教育については充実していると思う。避難訓練の取り組みは、指導を受けた通りに行っている。
	17 学校は、地域とのふれあいを通じたふるさと学習に努め、郷土愛を高めていますか。	教職員：91.7% 保護者：91.7% 児童：78.3%	B			
	18 学校は、食に関する指導や、体力向上の推進に努めていますか。	教職員：83.3% 保護者：89.6% 児童：87.2%	B			
	19 学校は、キャリア教育（ようこそ先輩・よろしく先輩）による教育活動の充実に努めていますか。	教職員：100% 保護者：80.9% 児童：63.5%	B	B	<p>【徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一斉下校時避難訓練に向けた防災会議の実施等を通して、昨年度の課題を踏まえた改善を図ることができた。日常に近い形でより実践的な防災教育の推進を図りたい。 ○ どの学年も、年間を通じて地域の方との学習を積極的に実施し多くの学びを得ることができた。臼太鼓踊りを継承する文化財愛護少年団、福祉祭りへの参加等、伝統継承を体験する機会となった。 <p>【体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6月に給食試食会を開き、食が成長に与える影響とともに、朝ごはんの意義について啓発を行うことができた。 ○ 6月の虫歯予防週間に、養護教諭が各学級で発達段階に合わせた虫歯予防の指導を行った。また、2学期には虫歯未治療者への個別の支援を行い早期治療の推進を図った。治療率7割に向け、家庭への啓発に努める必要がある。 ○ 猛暑の夏は、熱中症対策として、気温の危険指数を設定し、外遊びの調整・中止等の工夫を行ってきた。ルールを守りながら、安全に遊ぶ児童の姿が見られた。サマータイムの導入も、大変効果的であった。 ○ 1学期の体力テスト、2学期の運動会、持久走記録会への取組、3学期のなわとび週間など、学期ごとに児童の体力向上を図る活動を設定し、体育科の授業と関連させて昼休み時間等、児童の主体的な取組を推進することができた。 <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 門川高校生や門川中学生との交流を実施できた。門川町一斉ラジオ体操や運動会のボランティアとして協力していただき、福祉学習でも学びを深めることができた。 ○ PTA運営委員・保体部委員が中心となり、PTA マラソン大会を実施し、体力向上と地域・保護者・中学生と親睦・交流を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝統継承の体験はできているが、地域行事等の参加はまだまだのように思う。 ○ 門川神楽を舞っている児童も数名いる。わたしたちの思いを語る会で神楽継承の意識、舞い終えた自信、故郷への愛を発表した中学生は、五十鈴小の卒業生でした。 ○ 猛暑の対策大変だったと思います。サマータイムの導入も良かったと思います。 ○ 高校生や中学生との交流が、先の児童につながって欲しい。 ○ 先生方の仕事量がとても多いと思う。もう少し保護者に頼ってもよいのでは…保護者も寄り添いが必要だと思う。 ○ PTA 大会やわたしたちの思いを語る会等学校関係の行事に対するPTAの参加が少ない。 ○ 育成会加入が年々減少、児童の気持ちを無視し、親の都合を優先している。児童に責任はない。
	20 学校は、防災教育の充実に目指し、自分の命は自分で守る児童の育成に取り組んでいますか。	教職員：100% 保護者：99.0% 児童：94.3%	A			
	21 学校は、学習活動や学校運営にICTを積極的に活用していますか。	教職員：91.6% 保護者：78.9% 児童：87.0%	B			
	22 先生方は、無理なく仕事をして、子ども達に向き合う時間を作ることができていますか。	教職員：58.3% 保護者：83.1% 児童：87.0%	B			

【校長所見 ～ 次年度の方向性について】

めざす児童像の評価数値に、教職員と児童・保護者との評価の隔たりが見られる。これは、教職員自身の反省も含まれているが、職員が学校目標のめざす児童像の中で、進んで（自主的に）行える児童であるかの評価であると、とらえている。学級でめざす児童像の具現化を明確に提示し、保護者・児童とのゴールイメージを周知していきたくと考えている。ご指摘いただいた効果的なタブレットの活用を含め、「授業力向上」を目指し、教職員の研修の充実に努めながら、子ども達の学力向上につなげていきたいと考える。生徒指導について、五十鈴小で取り組んできた「五十鈴小の当たり前（あいさつ・集会の態度・スリッパ並べ）」など、更に全職員で基本に立ち戻り、児童の規範意識の向上を目指し、学年ごとに指導徹底を図っていきたくと考える。また、いじめのない学校づくりを目指し、未然防止への取組やいじめの兆候を見逃さない迅速な対応に心がけていきたい。家庭・地域との連携について、登下校の見守りや教育活動へのお力添えなど、地域の支えがあることで豊かな教育活動が実現できていると考える。地域・学校協働活動である「防災教育」や「ふるさと教育」の充実を含め、今後も、学校・家庭・地域との架け橋となり、一体となった教育活動に取り組んでいきたいと考える。